

2023年度一般入学試験問題

国語

(2月8日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は17ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	◎	○	○	○	○
----	---	---	---	---	---

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問一～八に答えなさい。

最初に背中の特徴を整理しておきたい。まず、直立二足歩行をする人間の両眼は、顔面に並んでついているため、常に前方に注意が向けられてきた。それゆえ背後はどうしても死角となりやすい。また人間の視覚は、五感の中でも聴覚・味覚・嗅覚・触覚に比べて著しく発達している。現代社会における多くの情報は、視覚で確認するようになってきている。ところが、自らの背中は身体をねじって振り返らなければ見ることができず、自らの顔も鏡を使わなければ確認できない。いわば顔と背中は、自ら目視のできない「ブラック・ボックス」となった身体部位と言える。にもかかわらず、顔も背中也常に他人の視線に曝さらされているのである。このうち顔については鷺田清一わだきよかずが、われわれは「他者の顔を「読む」ことによって、いまの自分の顔の様態を想像する」一点に注目し、「顔」という現象は、それが「わたしの顔」となるまえに、まずは共同性の様態だ」と指摘する（鷺田一九九八、五六～五八）。顔が、このような他者との共同性Aによって成立するのだとすれば、背中は他者から一方的に見られる受動的な身体部位だと言える。たとえ背中に他者からの強力な視線を浴びせられたとしても、直ちにそれを確認できないという点で、顔とは大きく異なっている。このように、背中のもつともケンアチヨな特徴は、自らの視覚が及ばないために背後で何が起きているかを確認できない無防備な身体部位という点にある。たとえば民俗学者の常光徹つねみつとあが指摘するように、「背後に異界や妖怪など非日常的な世界やモノが想像されている場合が多い」（常光二〇〇六、一三五）のは、このような背中の特徴に起因するためだと考えられる。

また背中は自らの身体部位でありながら、うまくセイギョイできないという特徴をもつ。内田百間の「王様の背中」という御伽噺おとぎばなしはこの点をリアルに描き出している。物語では、王様の背中が急に痒かゆくなって掻けば掻くほど痒さは増していく（内田一九八〇）。これは、ほかならぬ背中であつたらこそリアリティをもって読まれたのであり、頭や腕、足などではこうはいかなかったらう。つまり王様のような権力者でさえ、背中の痒みを自らセイギョBできなかつたというわけである。それゆえに背中は、人間以外の何か特別な力が作用するとみなされていた可能性が指摘できるだろう。

さらに背中は、腹と対をなして捉えられ、正面に対して影の部分を担わされてきた。たとえば、「背」という漢字を使った言葉には、「背任」「背水の」X「背く」などが挙げられ、表に対する裏、後ろ、または裏切りといった、どちらかと言えば否定的なイメージが付与されている。

また医学の分野においても、背中は決して重要な中核部分とは位置づけられてこなかった。江戸初期に書かれた寺島良安てらしまりょうあんの『和漢三才図会』わかんさんさいずゑの人体に関する部「経絡部」と「支体部」には五臟六腑ごぞうろくぼのほか、身体の各部位について詳しい説明がなされているが、「背」に関して力点が置かれていないのは背中よりも背骨である（寺島一九八六、一八三）。また江戸中期に『解体新書』が翻訳され西洋医学が導入されると、「人々は伝統医学が軽視してきた「脳」を、伝統医学の「心」に変わって一身の宗として重視し、脳と神経を中心にした身体観を形成した」（酒井一九九九、四五三）とされ

る。しかしだからと言って、このような身体観の変化の中で、背中が重視されるようになったわけでもなかった。ただし、江戸時代から庶民の間にも広まった鍼灸は、もとは背中に灸をすえ腹に鍼を打つ対で行う治療法であったが、しだいに健康法として背中と手足のツボに灸をすえるようになった〔酒井二〇〇三、八五〕。これにより背中は、灸をすえる身体部位としても人々に認知されるようになる。しかしそれはあくまで他人の背中であり、自らの背中は相変わらず

Y

のままであった。

(中略)

このように人間の背中は、表に対する裏、^(注1)ハレに対する^(注2)ケ、明に対する暗というようになつねに陰の部分^Eを担わされてきた。それをさらにホキョウ^ウする事例として挙げたいのが、仏像の背中である。仏像の背中にはきらびやかな光背が施されていることが多く、必ずしも背中は陰の部分にはなっていない。無防備な人間の背中、陰の部分^{*}を担ってきた人間の背中とは対照的である。しかし仏像の背後に廻れば、光背は仏像の建つ台座から支柱で支えられ、必ずしも背中から後光が放射されているわけではないことがわかる。そもそも仏像の背中は見せることを想定して作られているわけではないのだ。最初から、もつとも無防備な背中を見せず、そこにきらびやかな光背を施すこと^Eによって、仏像の背中は、人間の背中とは異質なものに創り上げられている。つまり背中を見せないことによって、仏像には、非力な人間を超えた救いの対象としての性格が与えられているとも考えられる。最初から「暗」の部分としての背中を想定せず、代わりに輝く光背を備えた仏像の前で、人間は自らの無防備さ、弱さを自覚し、祈りへといざなわれるのかもしれない。

(安井真奈美「狙われた背中―妖怪・怪異譚からみた日本人の身体観」による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。)

○文中の「」内は、引用文献の著者名と発行年、記載ページを提示したものである。

(注) 1 ハレ——民俗学の用語で、民俗文化における非日常的側面をさす。「ケ」と対比的な内容を示す。

2 ケ——民俗学の用語で、民俗文化における日常的側面をさす。「ハレ」と対比的な内容を示す。

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが 2、ウが 3。

- | | |
|---|--|
| <p>ア ケン チヨ</p> <p>① ケン シンのな看護</p> <p>② ケン キヨな態度</p> <p>③ 利用ケン ゲンを与える</p> <p>④ 消火器の安全テンケン </p> <p>⑤ ケン ビ鏡を覗く</p> | <p>イ セイ ギヨ</p> <p>① 陶器のセイ ゾウ工場</p> <p>② 新薬のセイ セイ方法</p> <p>③ 卒業セイ サクの展示</p> <p>④ 莫大<small>ばく</small>な賠償セイ キユウ額</p> <p>⑤ バス停でのセイ レッツ乗車</p> |
|---|--|

- | |
|--|
| <p>ウ ホキ ヨウ</p> <p>① ホセイ 予算案の審議</p> <p>② 強盗をタイ ホする</p> <p>③ 通学路のホソウ 工事</p> <p>④ 反対意見にジヨウ ホする</p> <p>⑤ 安全ホシ ョウ条約</p> |
|--|

問二 傍線部A「他者との共同性」とあるが、その内容を説明したものととして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は、4。

- ① 自分の顔は他者の手を借りて変容できる。
- ② 他者の顔が自分の顔の様態を知らせてくれる。
- ③ 自分の顔は常に他者の視線にさらされている。
- ④ 自分の顔と他者の顔の相互作用からは表情は生まれえない。
- ⑤ 豊かな表情のためには他者の力の排除が必要である。

問三 傍線部B「人間以外の何か特別な力が作用する」とあるが、その理由を説明したものととして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、5。

- ① 背中は見えない身体部位なので手入れが行き届かないから。
- ② 他者の視線を浴びる背中は常に危険にさらされているから。
- ③ 自分の背中は権力者でさえ支配できない部位だから。
- ④ 背中は見えないためにかえって特殊な力を発揮しやすいから。
- ⑤ 背中は面積が広くいろいろな症状が発現しやすい部位だから。

問四 傍線部C「背」という漢字を使った言葉」とあるが、「背」という漢字を使った慣用表現の中で、筆者の主張にあてはまるものとして最も適

切なるものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、6。

- ① 背に腹は代えられぬ
- ② 遠くの火事より背中のみ
- ③ 雨が馬の背を分ける
- ④ 社会に背を向ける
- ⑤ どんぐりの背比べ

問五 空欄Xに当てはまる語として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7。

- ① 弁
- ② 生
- ③ 人
- ④ 死
- ⑤ 陣

問六 傍線部Dの時代とは関係のない文学者・文学作品を、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

8。

- (a) 与謝蕪村 よさぶそん
- (b) 徒然草 つれづれぐさ
- (c) 雨月物語 うげつものがたり
- (d) 滝沢馬琴 たきざわばきん
- (e) 良寛 りょうかん

問七 空欄 Y にあてはまる文中の語句として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、9。

- (a) 表
- (b) 正面
- (c) 非日常的な世界
- (d) ブラック・ボックス
- (e) 中核部分

問八 傍線部E「仏像の背中は、人間の背中とは異質なもの」とあるが、どのような点で異質だといえるのか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、10。

- (a) 仏像の背中から輝く後光が放射している点
- (b) 仏像の背中が支柱で支えられ無防備ではない点
- (c) 仏像の背中は人間の視線が届かないことが前提になっている点
- (d) 仏像の背中のさらびやかな細工が「暗」の部分隠している点
- (e) 仏像の背中が人間の弱さや無防備さを救ってくれる点

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、問一～七に答えなさい。

「話しことば」は変化しやすい。「書きことば」は保守的だといわれるが、時空を超えて情報を蓄蔵するという「書きことば」の「使命」からすれば、それは当然なことといえよう。その保守的な「話しことば」と「カイロ」でつながっていることによって、「話しことば」の急激な変化に少しブレーキをかける、ということがあるだろう。それも「書きことば」の「使命」といつてもよい。しかし標準的な「書きことば」が「話しことば」に接近して「話しことば」化すると、二つの言語態の違いがはっきりしなくなり、ブレーキがかかりにくくなるということがあるのではないか。それは違いを前提にしていた「カイロ」が「カイロ」として機能しなくなるといってもある。

日常的な言語生活にある言語は「話しことば」「話しことば化した書きことば」(注)「打ちことば」ということになり、いずれにしても、「話しことば」にちかい言語のみで日々の言語生活が展開していくことになる。それが現時点における筆者の見立てだ。

そうだとすると、標準的な「書きことば」をとりもどす、安定させる、ということが重要になるだろう。日常的な言語生活において標準的な「書きことば」が失われつつあったとしても、書物というかたちでそれは膨大に蓄積されている。壊れた日本語を修復する一つの方法が「書物を読む」ということだとすると、「なんだそんなことか」となりそうだ。

もともと「ハードな書きことば」にふれるはずの大学生が本を読まない、といわれるようになって久しい。学術書や論文などで使われるもともと「ハードな書きことば」は現在も存在しているが、それもおそらく変化してきている。もともとそうした「ハードな書きことば」は日常的な言語生活でふれるようなものではなかった。それに準じるものとして、「教養を語る書きことば」すなわち、「セミハードな書きことば」があり、新書や選書といった書物によって、それに接することができた。「教養」は「内容」によって語られることが多いが、「内容」を盛る「器」は「内容」と表裏一体のものであり、「教養」という概念が変わることによって、「器」すなわち「教養を語る書きことば」も変質した。その結果として「セミハードな書きことば」も日常的な言語生活から姿を消した。

「セミハードな書きことば」によって書かれている書物が減少し、「セミハードな書きことば」に接する機会が減ったことが、さらに「セミハードな書きことば」によって書かれている書物が読まれなくなるという「悪ジュンカン」を引き起こしているというのではないだろうか。かつて「教養」をになっていた新書や選書がおもしろさを追求した結果、出版社が市場を自身によって狭くしているというのではないか。

かつては、朝の電車の中で新聞を読んだり、本を読んだりしている人が多かった。ある時期からマンガを読む人が目立つようになり、それが話題になった。そのうちにマンガを読む人もいなくなり、最近ではほとんどの人がスマートフォンを操作している。

隣の人は何をしているかなと思うと、ゲームであったり、商品を見ていたり、LINEを見ていたりとさまざまだ。マンガや本をスマートフォンで読んでいる人もいる。この場合は、読むための媒体が変わったということになる。いずれにしても、書物の「書きことば」にふれる時間は減っているだろう。いろいろな情報が書物という形態で蓄積され、現在に伝えられてきている。ギリシャの哲学者の思索も、中国の思想も、文字化され、書物という形態に収められることによって、時空を超えて現在に伝えられてきている。まさに「書きことば」の使命だ。書物にふれない、ということはそういう情報にふれないということでもある。

いや、そういう情報はインターネットでふれることができるという反論があるだろう。たしかに、かつては、所蔵されている図書館に行かなければふれることができなかった貴重な書物の画像が公開されている。いろいろな書物にインターネットでふれることができる。そういう意味合いでは、確かに、かつてよりも「情報」にふれやすくなっている。

しかし、そういうさまざまな「情報」が検索キーに検索ワードを入れてエンターキーをぼんと押すと出てくる。そこには「情報」にたどりつくまでのプロセスがない。そしてまた検索結果は「ヒットするかしないか」だ。「情報」にたどりつくまでの「プロセス」もたどりつきたい「情報」の一部といってもよい。最後はたどりつくことができなかつたが、ここまではいかせるということはある。山の頂上にはたどりつけなかつたが、ここまでのルートはしっかりとっていて、次もまた使える、他の人もこのルートを使えばここまでは確実に来ることができる、ということであれば、頂上へのアタックだけをやりなおせばよい。

一方、インターネットでの検索は頂上か、麓か、ということになりやすい。「プロセス」根性論を唱えているのではなく、貴重な「情報」を手に入れるためには、それにふさわしい方法や「プロセス」があつて、それも貴重な「情報」の一部だろうということだ。「プロセス」を意識するということは、時間を意識することであり、それは過去への目配り、「X」への感覚ともつながる。情報が蓄積されている書物は「X」ともふかかかわっている。

インターネットの情報はいろいろなものが混在しているから真贋を見分けなければならない、ということとはよく言われている。それもそうであるが、統括者が存在しないということはさらに気になる。統括者は情報の内容に責任をもつ人でもあろうが、統括者が情報にまとまりを与えようということとは重要だろう。「まとまり」は脈絡といつてもよい。

言語に関していえば、「文」があるまとまりをもって集まったものが「文章」である。「文」がただ複数集まったものが「文章」ではない。情報にとって「まとまり」は大事で、統括者が存在していれば、情報の粒が揃う。この場合の「粒」を「具体／抽象」でとらえてもよい。具体的な情報と抽象的な情報とが混在しているとわかりにくい。こう考えてくると、(中略)「古典を読む」というようなことは、標準的な「書きことば」の復権のた

めには有効な方法の一つとってよいだろう。

(今野真二『うつりゆく日本語を読む』による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。)

(注) 打ちことば——携帯電話やパソコンのキーを使って(打って)書かれた語句・語法。また、その文章。

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

11、イが 12。

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| ア | イ |
| カ
イ
ロ | ジ
ユ
ン
カ
ン |
| ① カエルをカイボウする | ① ジュンプウ満帆な人生 |
| ② 工作キカイを修理する | ② インジュン姑息 <small>こくそく</small> な態度 |
| ③ ジンカイ戦術 | ③ 各地をジュンギョウする |
| ④ 雑誌をカイランする | ④ ジュンシヨクした警官 |
| ⑤ カイシンの笑みを浮かべる | ⑤ 五月ジヨウジュンが期限だ |

問二 傍線部A「それは当然なことといえよう」とあるが、なぜ「当然だ」といえるのか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答

欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 13。

- ① 保守的な上層の人々によって使われてきたのが書きことばだから。
- ② 情報を蓄蔵することは、保守的であるということだから。
- ③ 情報を蓄蔵するためには、変化は望ましくないから。
- ④ 情報を守る使命を果たすためには、保守的な態度が望ましいから。
- ⑤ 情報を伝えていくためには、情報の機密性を高める必要があるから。

問三 傍線部B「『話しことば』の急激な変化に少しブレーキをかける」とあるが、どうやって「ブレーキをかける」のか。最も適切なものを、次の

- ㉠㉡のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、14。
- ㉢ 書きことばは話しことばとは無関係に存在するが、同じ「ことば」に統括される存在であるため、自然と一方の変化に反応してしまい、それが結果的にブレーキになる。

- ㉣ 保守的な書きことばが、正反対の性質を持つ話しことばに接近して似てくることによって、話しことばの変化のスピードを下げることになる。
- ㉤ 書きことばの持つ「変化しにくい」という性質は、話しことばと真逆の性質のため、変化にブレーキをかけることになる。
- ㉥ 書きことばが話しことばと「ことば」という点で構造的につながり両者の違いが中和されることで、ブレーキの役目を果たすことになる。
- ㉦ 「本を読む」人が増えることで、書きことばの社会的地位が向上し、それが話しことばの暴走を止めることになる。

問四 傍線部C「壊れた日本語」とは何か。最も適切なものを、次の㉠㉡のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

15。

- ㉠ 本を読まなくなった日本人の使っている日本語のこと
- ㉡ 正しい日本語が使えなくなっている人たちの日本語のこと
- ㉢ 話しことばも書きことばもなくなった日本語のこと
- ㉣ インターネットで触れる、プロセスのない日本語のこと
- ㉤ しつかりとした書きことばが消えつつある日本語のこと

問五 傍線部D「『セミハードな書きことば』も日常的な言語生活から姿を消した」とあるが、なぜ姿を消したのか。最も適切なものを、次の(a)～(e)

のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

16。

- (a) セミハードな書きことばで書かれていた教養の内容が娯楽化することで、教養を書くことばも話しことば化した書きことばに変わったから。
- (b) 教養というものが社会の中で求められなくなったことで、それを書くための手段だったセミハードな書きことばも一緒に消えることになったから。

(c) 書きことばが話しことば化することで、新書のセミハードな書きことばは、論文などで用いられるようになり非日常化したから。

(d) セミハードな書きことばが使われていた教養の概念が変わり、教養を担っていた新書や選書も市場を狭くしているから。

(e) セミハードな書きことばで書かれている書物が減り、セミハードな書きことばに接触する機会も使用する機会もなくなったから。

問六 空欄 X に入る語句は何か。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

17。

- (a) 時代
- (b) 歴史
- (c) 時空
- (d) 変化
- (e) 思索

問七

傍線部E「『古典を読む』というようなことは、標準的な『書きことば』の復権のためには有効な方法の一つとあってよいだろう」とあるが、なぜ筆者はそう考えるのか。最も適切なものを、次のa)~e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18

a) 古典は、時空を超えて伝えられた遺産であり、そこには時間という絶対的なプロセスがある。プロセスを意識して読むということは、書きことばの本質を意識することであり、そのことで標準的な書きことばの感覚が復活すると考えるから。

b) 古典の中には、日常的な会話を記した文学作品や、筆者の主張や思索を記した論述的著作があり、さまざまな書きことばが混在している。このようなさまざまな書きことばに触れることで、書きことばの標準が何かを理解できるためその復権に有効と考えるから。

c) 古典は古い時代の出来事や思索が記録されているため、それを解読するために辞書を引いたり、その時代背景を知るために歴史を学んだりする。このことが、ハードな標準的な書きことばを学ぶ機会になるため有効だと考えるから。

d) 古典は、基本的に筆者がいるためにその内容や情報にまとまりがあり、そして、古い時代の述作であるために過去の情報が蓄積されている。これらは、標準的な書きことばの持つ典型的な特徴だと認められるため、その復権に有効だと考えるから。

e) 古典を読むことは、知らない時代の知らない日本語に触れる機会を得ることであり、そして、昔のことばは、もともとハードな書きことばだと言える。もともとハードな書きことばに触れば、標準的な書きことばを復権できると考えるから。

次の文章を読んで、問一〜七に答えなさい。

どんよりと空の重い堤防に、子供の泣き声が聞こえていた。杉村君はその泣き声につられて行つて見た。コンクリートの堤防にころがって男の子が泣いていた。友達にいじめられたのだろうか、地団駄踏んで、くやし泣きに泣いていた。【①】

「おい、起きろよ。写真撮られるぞ」と兄貴株が起こそうとした。その瞬間、杉村君のシャツターは切られた。【②】

この写真を見ていると、この子供の泣き声が聞こえて来る。なんでそんなに泣くのだろうか。友達にいじめられたにしろ、ただそれだけで、こんなに泣くのではない。貧しい家の子は、悲しい。普段から淋しい、つらい、くやしいことが子供の心に一杯たまっているのだ。貧しいばかりに、親も子も、思うに任せないことばかりなのだ。生活に追われる親たちは、子供にかまけていられない。フトしたことも親の神経をいらだて、罵声となり、拳骨となって飛ぶ。子供も傷つけられやすい心をもっている。ただ一寸友達から意地悪されたからといって、こんなに泣くのではない。それがきっかけとなって、普段からたまっていたいろんな淋しさや、つらさや、くやしさが、あとからあとから波のようにこみ上げて来るのだ。この泣く子のまぶたの裏には、どこにも明るい希望のない貧しい家が映っている。すすけたざんばら髪の子の青つぶくれた母親の顔が映っている。日が暮れてから焼酎臭い息を吐きながら帰って来る赤黒い父親の顔も映っている。杉村君の「泣く子」のそのリアリティは素晴らしい。この「泣く子」を見ると、あの美辞麗句に満ちた「児童憲章」などは、如何にそらぞらしいものであるかを知らされる。こんなにも激動する感情を掴んだ写真は、戦前戦後を通じてまれに見るものである。【③】

泣く子は、どこにでもいる。しかし、泣く子のすべてがモチーフになるわけではない。いろんな子供がおり、いろんな泣き方がある。つまり、時と場合がある。杉村君の「泣く子」の場合、モチーフである泣く子と、波に洗われたコンクリートと、曇り日の日差しと、その三つが見事に調和して、泣く子の悲しさを完璧な写真に造型したのだった。垢じみた手や顔の肌と、荒れたコンクリートの表面とは、その荒れにおいて、画面のマチエール——目に与える触覚的カンメイを統一しているし、曇り日のにぶい光は、手、顔、着物、コンクリートの質感をそれぞれ丁寧に描写して、貧しい子の悲しさを一層切実なものにしている。つまりヴァール——Xも、全体的に調和の取れた美しさを持っているのである。それは、フランス現代画壇の巨匠ジョルジュ・ブラックがしばしば砂を油絵の具に混ぜて描く静物画のような渋いマチエールとヴァールを持っていると言っても、褒めすぎではない。【④】

モチーフと、その時と場合、つまり泣く子とコンクリートと曇り日の三つの組み合わせのどの一つがくずれても、この「泣く子」は生まれなかったのである。もし杉村君がシャツターを切った瞬間、カンカン日和りだったとしたらという「反対設定」をして見れば、すぐわかる。この泣く子の打ちひ

しがれた悲しさを描写するのに、ハイライトとシャドーが強いコントラストを作るカンカン日和りだったら、フカフカと浮いてしまつて、まるでリアリテイが出ないでしまう。多分、杉村君はカメラを向ける気にならなかつたに違いない。【5】

モチーフの持つリアリテイ——その本質的な実感を描写する上に、空模様は重大な働きをする。つまり照る日には照る日の、曇り日には曇り日のモチーフがあるのである。撮影会の日などに曇つてしまつても、主催者は急に対策が立たず、当然、カンカン日和のモチーフであるべき「美女と花」といった趣向のモデル撮影を強行してしまふ。読者諸君は、よくそんな目に会つた経験があるう。照る日には照る日の、曇り日には曇り日のモチーフがある。だから、朝、撮影に出かけるときの空模様で、大体の見当をつけ、もし途中で空模様が変われば、それに応じて、モチーフを発見する眼のつけどころを変えなければいけない。シゴク当然な話だが、リアリズム写真の第一歩は、先ず Y を見るといふところから始まる。杉村君の「泣く子」に、僕はそれを教えられた。実はよく考えて見ると、自分の過去の作品でも、比較的成功したものは、モチーフに調和した空模様、つまり光の条件に恵まれた場合にのみ出来ている。読者諸君にも思い当たる経験が沢山あるに違いない。

(田沼武能編『土門拳 写真論集』による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次のa)~e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

19、イが 20。

- | | |
|--|--|
| <p>ア カンメイ</p> <p>a) メイカクな表現を心がける</p> <p>b) 故人のメイフクを析る</p> <p>c) 他人にメイワクをかける</p> <p>d) 師の教えをメイキする</p> <p>e) メイジツともにそろつている</p> | <p>イ シゴク</p> <p>a) キヨクタンな考え方</p> <p>b) シュギヨクの名作</p> <p>c) 事実をワイキヨクして伝える</p> <p>d) 天国とジゴク</p> <p>e) ナンキヨクを乗り切る力</p> |
|--|--|

問二 次の の段落は、文中の【①】～【⑤】のどの位置に入るのが最も適切か。次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 。

先日のこと、同じ曇り日でも、僕はこの「泣く子」と全く反対の現象を見た。築地界隈は波除神社の祭礼だった。魚河岸のあんちゃんたちがお揃いのゆかたを来て、白足袋や素足姿で御神輿をかついでいた。生憎なことに糠雨が降っているような曇り日だった。さすがに魚河岸のあんちゃんたちは威勢よく「ワッショイ、ワッショイ」とやっているのだが、夏祭りの明るさなどどこにもなく、まるでお葬式のように、しよぼけて見えるのだった。

- (a) 【①】
(b) 【②】
(c) 【③】
(d) 【④】
(e) 【⑤】

問三 傍線部A「なんでそんなに泣くのだろうか」について筆者が述べていることとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 。

- (a) 他人には見られたくない姿を写真で撮られてしまったから。
(b) 日常の中に積もっていたさまざまな感情が湧き出してくるから。
(c) 明るい希望を見いだせない自分の生活が、まぶたの裏に映っているから。
(d) 子どもは傷つけられやすい繊細な心を持っているから。
(e) 貧しい自分の家の中で暮らす両親の姿が目には浮かんでくるから。

問四

空欄 X

に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

23

- ① 荒れた感じのする画面
- ② 鮮やかな色の組み合わせ
- ③ 洪さをそなえた写真
- ④ 強い光のコントラスト
- ⑤ 画面の調子そのもの

問五

傍線部B「読者諸君は、よくそんな目に会った経験があるう」とあるが、筆者はそうした場合にどういう態度で写真を撮るべきだと考えているか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

24

- ① 主催者の趣向を尊重しながら、カンカン照りのモチーフにそって、よりよい「美女と花」の写真を目指すべきだ。
- ② 元の「美女と花」という対象から離れて、曇り日の天気にあった別のモチーフを探求すべきだ。
- ③ 曇り日にふさわしいモチーフを見つけることは難しいということを十分に理解した上で、写真撮影に向かうべきだ。
- ④ 「美女と花」という対象はそのままにして、カンカン照りにふさわしいモチーフを見つけるように心がけるべきだ。
- ⑤ 照る日と曇り日におけるモチーフの違いがあることをわきまえて、曇り日のモチーフに出会えることを願うべきだ。

問六

空欄 Y

に入る表現として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

25

- ① 対象
- ② 自然
- ③ 空模様
- ④ 調和
- ⑤ モチーフ

問七 筆者はどのような写真を高く評価すると考えられるか、本文から読み取れることとして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解

答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、26。

- ① 写された人の奥にある激しい感情を、しっかりと掴み取れている写真
- ② 映し出された対象が持つ、本質的なリアリティが感じられる写真
- ③ モチーフを十分に描くために、その日の天候にふさわしい配慮がある写真
- ④ 周りの風景と対象がしっかりと調和して、心を和ませるような写真
- ⑤ 身近なモチーフでありながら、多くの人が気づいていない情景を切り取った写真

